



こども園から広がる地域の輪

～あしやスクラムプロジェクト～

武庫川女子大学 生活環境学部
情報メディア学科 大森ゼミナール
3年 青木桃香 鍛佑奈 盛本唯芽

兵庫県芦屋市の現状

①平均所得が高い

兵庫県内順位

順位	市町村名	平均所得
1	芦屋市	652万88807円
2	西宮市	442万8372円
3	宝塚市	410万909円

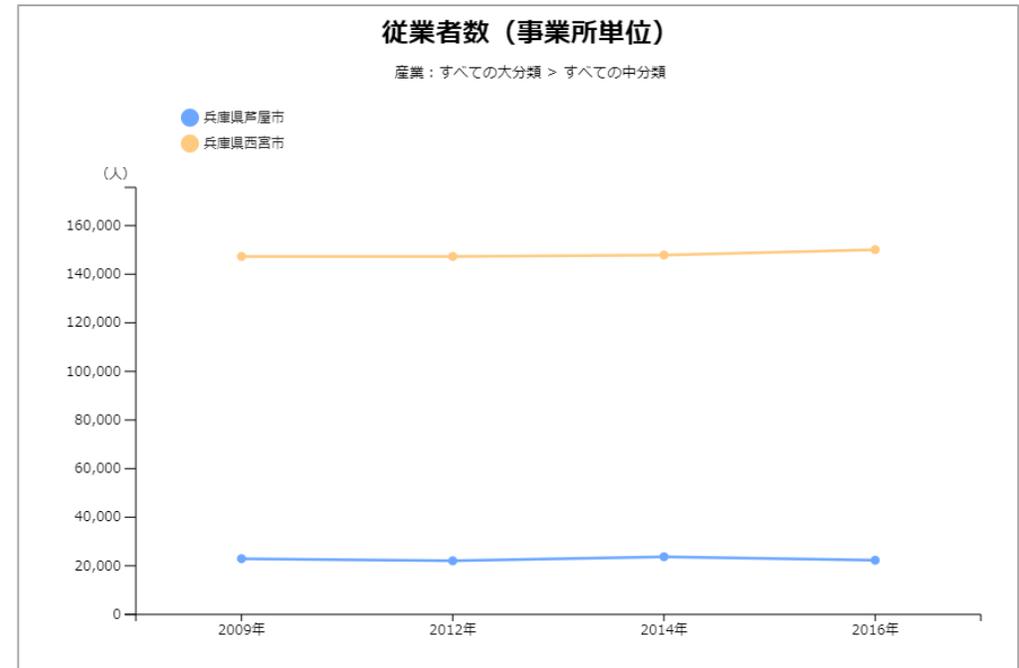
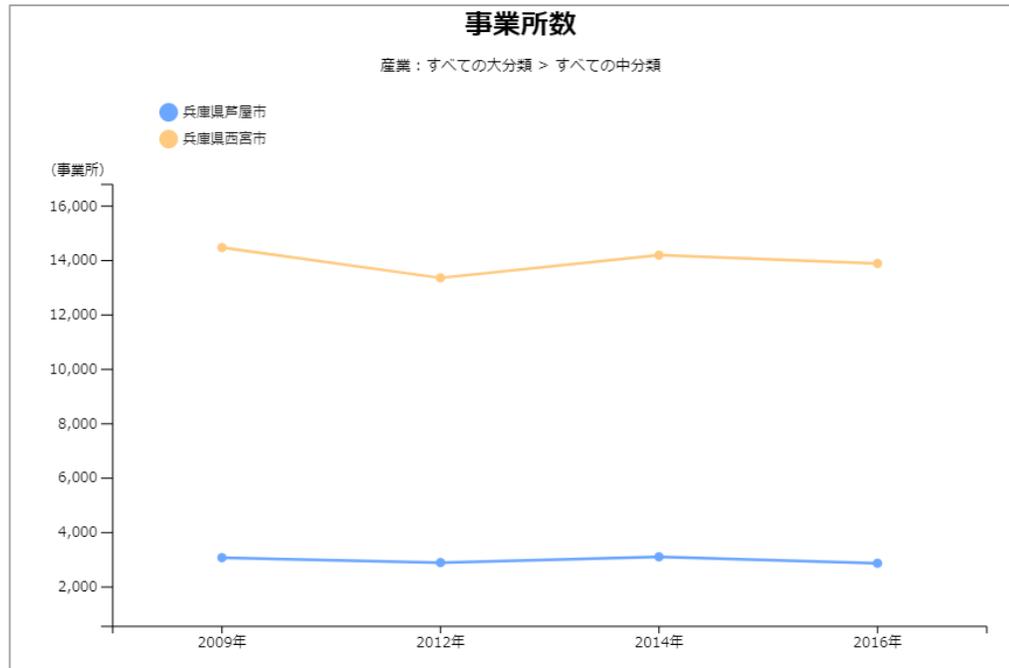
(参考)2018年総務省家計調査

全国順位

順位	市町村名	都道府県名	平均所得
1	港区	東京都	1126万4535円
2	千代田区	東京都	999万1758円
3	渋谷区	東京都	851万2261円
4	猿払村	北海道	765万6427円
5	芦屋市	兵庫県	652万8807円
6	中央区	東京都	647万1460円
7	目黒区	東京都	615万2461円

兵庫県芦屋市の現状

②働く場所が少ない



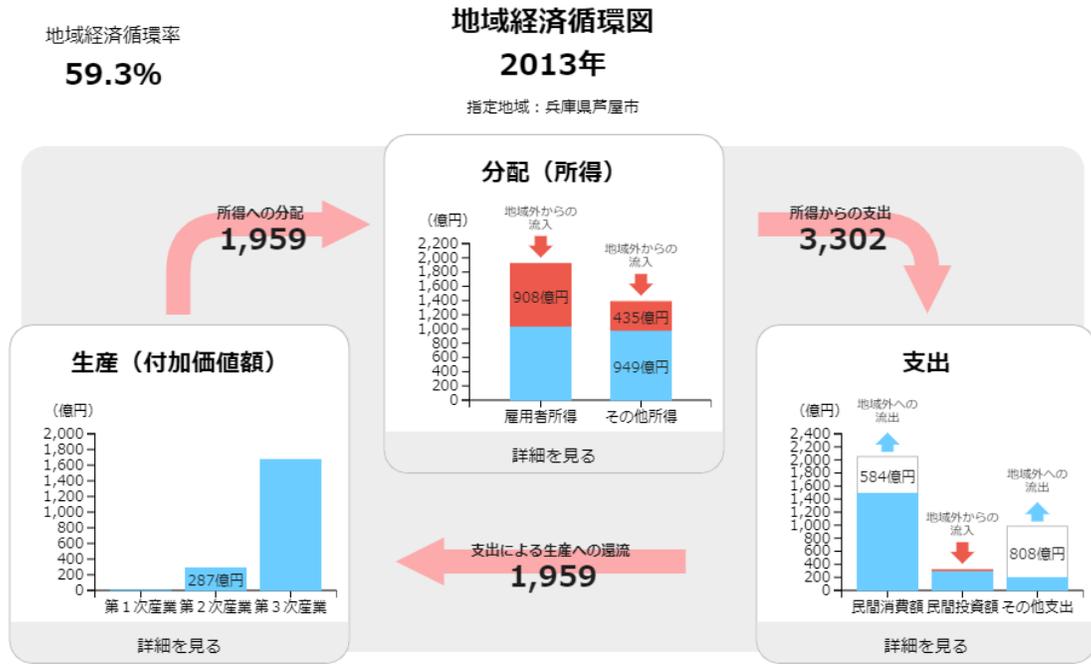
- ◆ 事業所数、従業者数が少なく働く場所が少ない
- ◆ 市外で勤務する人が多い



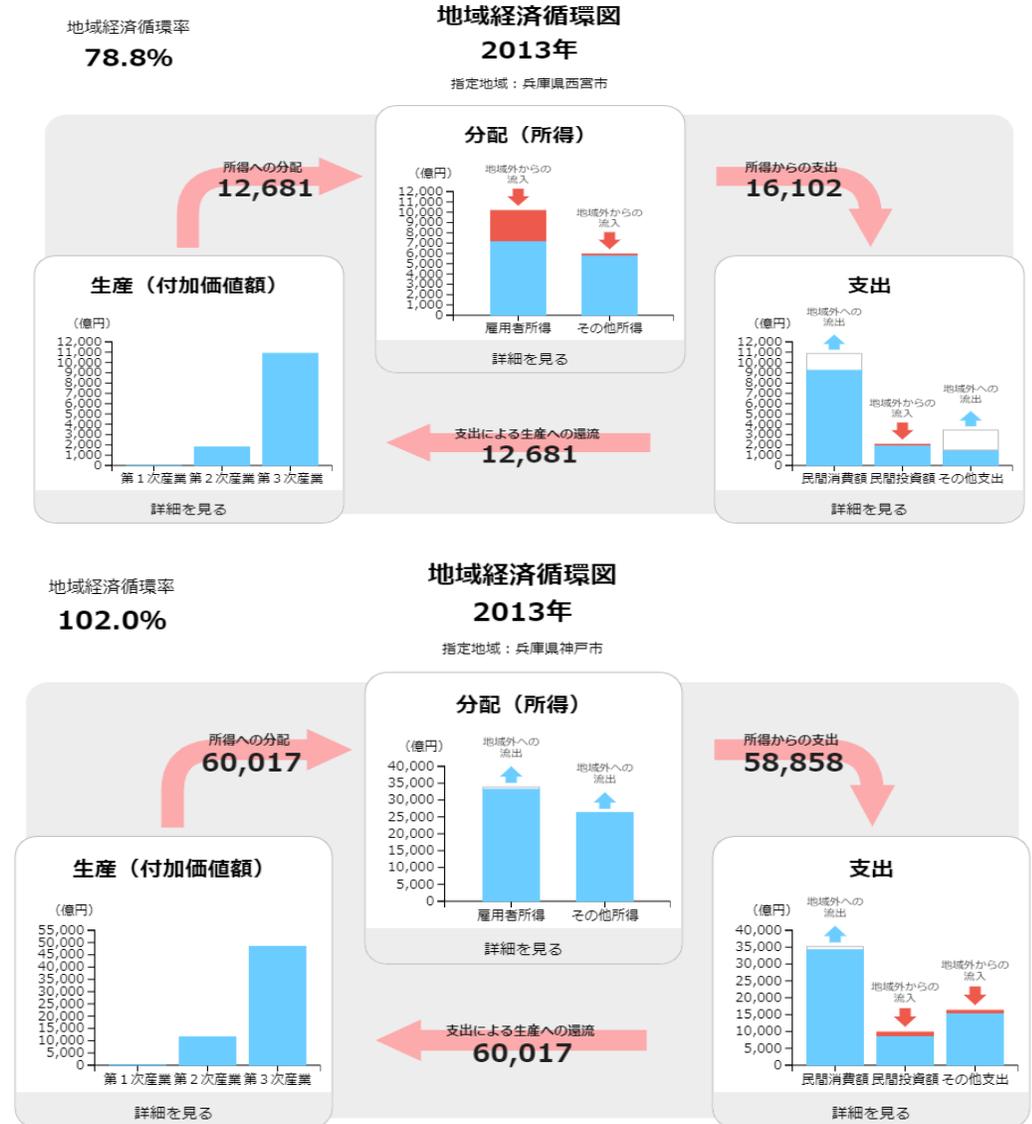
市外での所得が多い

兵庫県芦屋市の現状

③地域経済循環率が低い



◆ 芦屋市の地域経済循環率は他の2都市と比べて低く、市外での所得を得る割合が多い

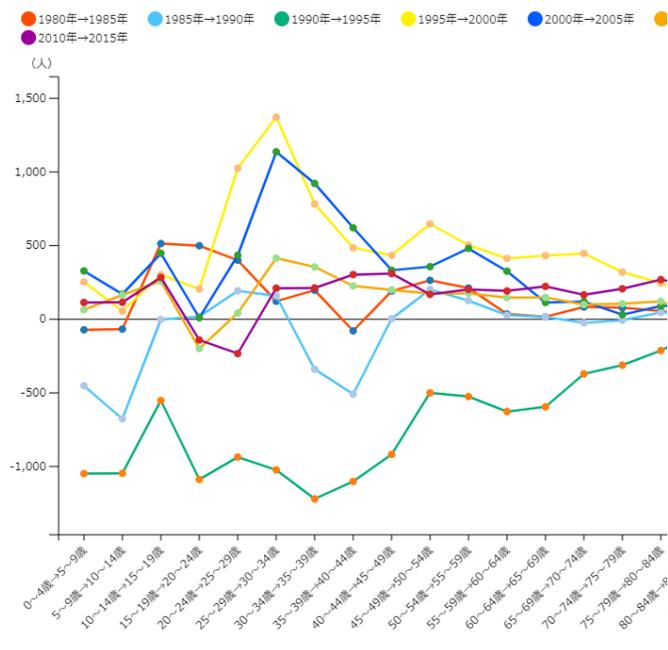


兵庫県芦屋市の現状

④人口流入の減少

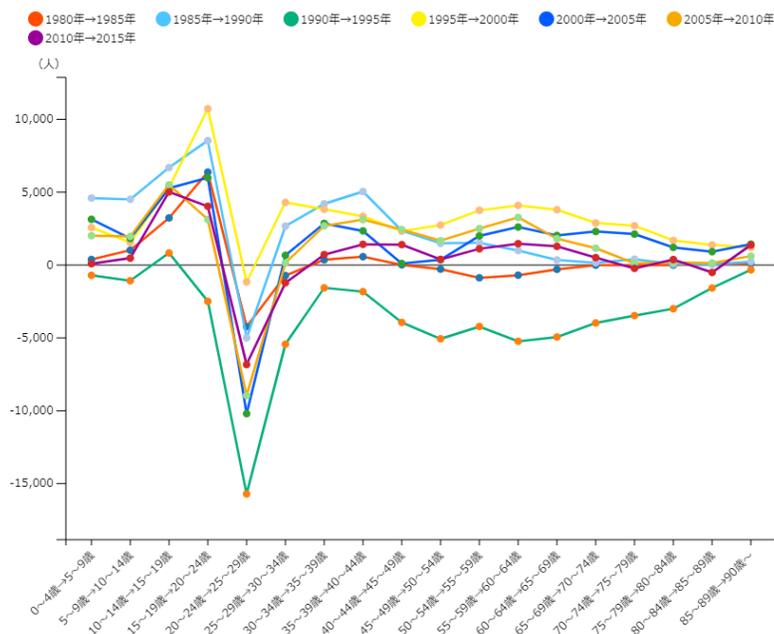
年齢階級別純移動数の時系列分析

兵庫県芦屋市



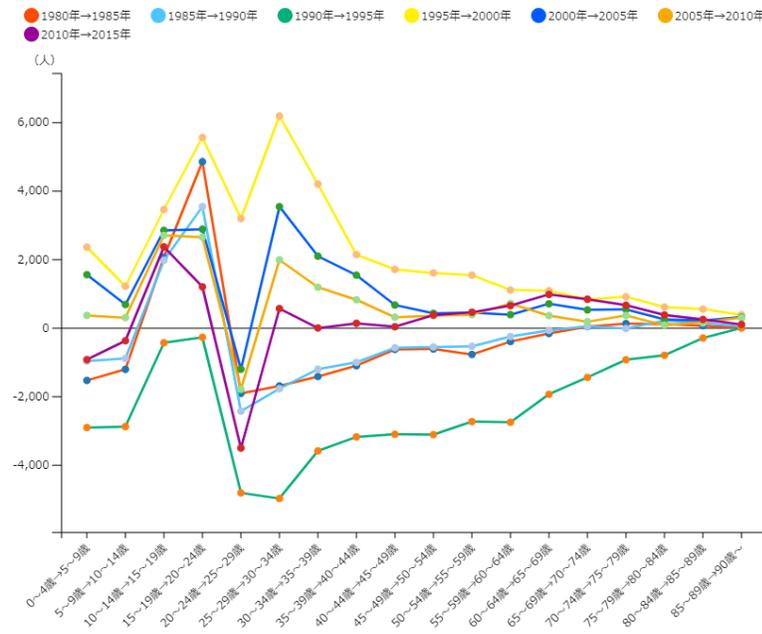
年齢階級別純移動数の時系列分析

兵庫県神戸市



年齢階級別純移動数の時系列分析

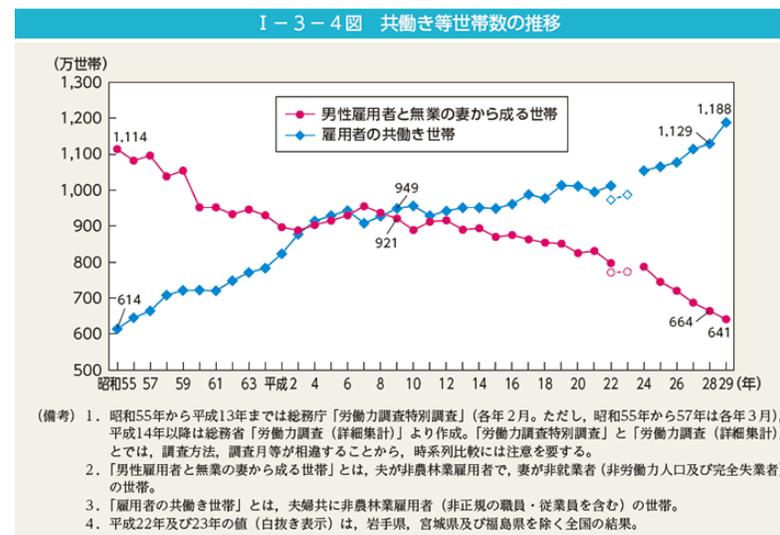
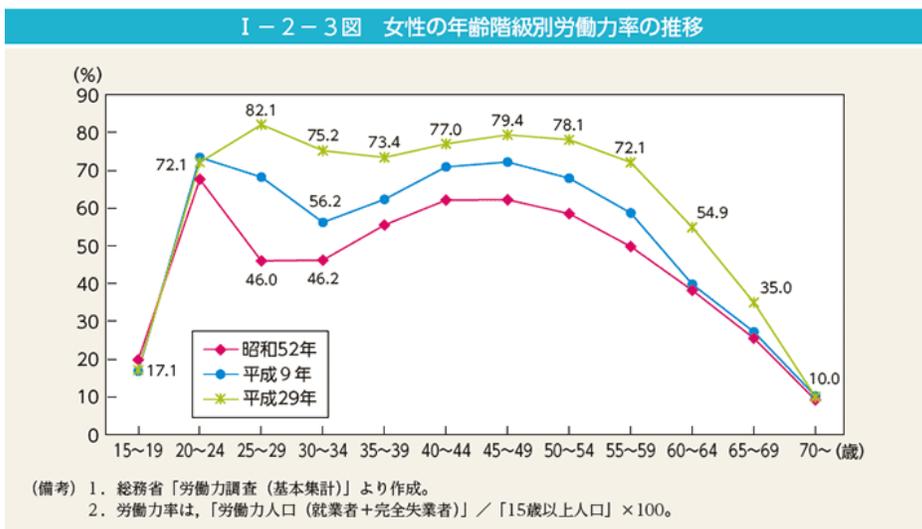
兵庫県西宮市



- ◆ 芦屋市は20代での人口流出が少なく、30代での流入も多い
→住宅地である芦屋市は子育て世代にとって魅力的な都市であることが背景にある
- ◆ 2005年以降はその優位性は低減
→共働きが一般化するなかで、子育てしながら働く機会が得にくい

兵庫県芦屋市の現状

④人口流入の減少



「男女共同参画白書 平成30年版」(内閣府)

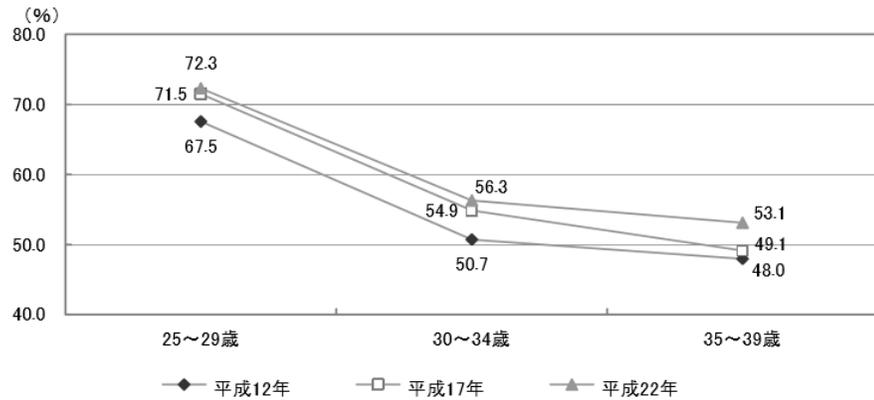
- ◆ 芦屋市は**20代**での人口流出が少なく、**30代**での流入も多い
→住宅地である芦屋市は子育て世代にとって魅力的な都市であることが背景にある
- ◆ **2005年以降**はその優位性は低減
→共働きが一般化するなかで、子育てしながら働く機会が得にくい

兵庫県芦屋市の現状

⑤子育てをしながら働きづらい環境

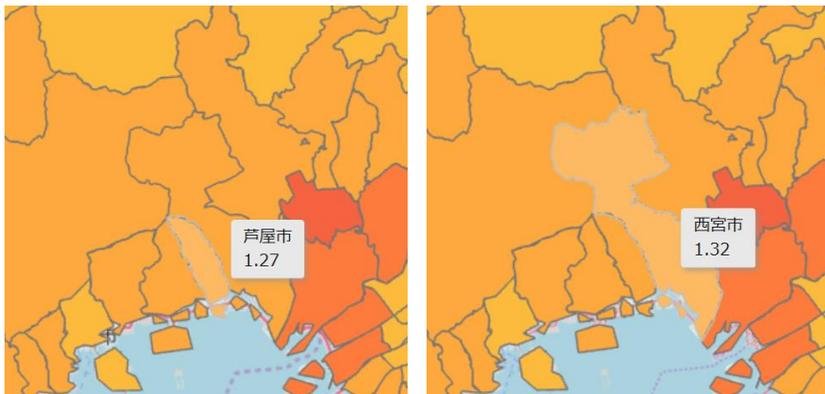
芦屋市における労働力率の推移

図 労働力率の推移（女性、25～39歳抜粋）



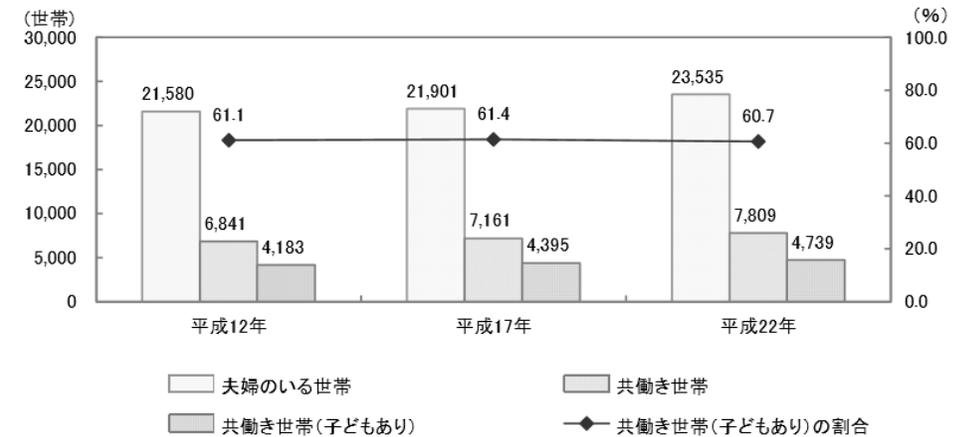
※労働力率 = 15歳以上人口に占める労働力人口の比率
資料：国勢調査

合計特殊出生率



芦屋市における共働き世帯の状況

図 共働き世帯の推移



資料：国勢調査

転載：「統計データから見る芦屋市の保育所と幼稚園における現状」（芦屋市 2013）

- ◆ 共働き世帯（子供有）の割合は6割超
- ◆ 一方、30歳を境に女性の労働力率は大きく低下
→子育てしながら働く環境が十分ではない
- ◆ 芦屋市は合計特殊出生率が1.27と兵庫県平均1.47と比較して低い
（西宮市と比較しても低い）
→女性の子育て支援にさらなる政策が必要

働き方についての母親の声（質的調査）

子育てや仕事について、芦屋市立上宮川文化センター、芦屋市立青少年センター、芦屋市立保健福祉センター、親子の体操教室（私設）、芦屋リジューム担当者、三宮北野バレエ教室（私設）において令和元年7月13日～9月29日の期間に計58人の中学生以下の子どもを持つ母親にヒアリング調査を行った。

就業している母親

勤務先の決め手

子どもの帰宅時間までに帰れる
距離が電車で30分以内
シフトの融通が利く
自分のしたいことだった

働く理由

子育ての気分転換
お小遣い稼ぎ
社会との交流
時間に余裕が出てきた

時短勤務

子どもと接する時間が増える
時短でないと働くことができない
送り迎えの間に働けると助かる
子どもが親離れし始めれば、フルタイムに戻したい
子どものお稽古が増えた

就業していない母親

働きたいか

76%

働かない理由

子育てと両立できる職場が少ない
子どもを優先したい
子どもの成長を見たい
緊急性がない

理想の職場

同じ環境の人がいること
人間関係がいい
急に休める
資格が生かせる

重視すること

時間の融通
子供との時間や予定がとれる
自宅からの距離
趣味の延長で働きたい

時短勤務

時短ならそろそろ働き始めてもいい
低学年は13時下校があるから厳しい
預けることができれば時短勤務したい

赤字部分は神戸市でのヒアリング結果と比較した結果、明らかになった芦屋市の母親たちの特徴的な声である。芦屋市の母親は働くにあたって、自分の「得意」を生かすこと、社会との交流を重視している。また、芦屋市・神戸市ともに、子どもの帰宅時間や通勤時間が働く場所を決める際の条件となっていることがわかった。

子育てについての母親の声（質的調査）

子育てについて

就業している母親

- ・クラブチームなど習い事をさせる際にサポートへの参加が難しい
- ・小学校のPTAなどの保護者活動で働いていると参加に負い目を感じる
- ・園の行事準備になかなか参加できない
- ・市街に勤務していると勤務先での母親仲間が多くなる
- ・生活リズムの違いでママ友が少ない

就業していない母親

- ・生活リズムの違いでママ友のグループができている
- ・就業している人と子育てに対して価値観や、考え方が違うと感じたことがある
- ・PTAなど保護者会や園の行事イベントで双方の意見を取り入れる事に気をつけている
- ・園の保護者会イベントの際、もう少し就業している方も本音をいうと手伝って欲しいと思ってしまう



芦屋市の母親の特徴

- ・子どもが第一優先のため自宅から距離が近く、時間の融通が利く仕事を求める
- ・子ども一人でのお留守番にマイナスイメージ
- ・就業している母親と就業していない母親との間でコミュニケーションに溝がある
- ・親子イベントへの参加や習い事など子供の成長に関わることに積極的
- ・趣味や興味を活かして働きたい
- ・起業に挑戦してみたい
- ・社会貢献や自己実現がしたい

「ASHIYA RESUME」プロジェクト

芦屋市市民生活部男女共同参画推進課が2017年から実施している「女性のための起業・再就職支援」プロジェクト。女性の多様な働き方へのニーズに応えるために右図の7つのプログラムを提供している。

担当者と参加者へのヒアリング結果

■芦屋市男女雇用機会推進課担当者

- ・芦屋市には趣味や特技を持っている人が多いこと、起業を考えている人が多いことから、趣味や特技をいかし起業したい女性をターゲットにプロジェクトをスタートさせた
- ・実際にプログラムに参加している人の多くが起業を本格的に考えているか進行中

■プロジェクト参加者

- ・スキルを活かしていききたいけれど、結局何から手を付けたらよいのかわからない
- ・SNSを使用したPRは難しく感じた
- ・多彩なスキルを持つ方と出会えて刺激になった



- ・芦屋市も、芦屋市の女性が趣味や特技を生かして仕事をしたいと考えていることを把握している。平均所得が高く、趣味や特技などの自己投資に積極的な土地柄だと考察できる。
- ・市内に事業所数が少ないため、仕事復帰の選択肢として、起業を考える女性が多くなっていると考えられる。
- ・起業を実現するためのハードルは高く、今後、プロジェクト利用者を増やしていくためには導入ステップが必要。

ASHIYA RESUMEが提供する7つのプログラム



出会う

salon

ASHIYA RESUMEの様々なプログラムへの入口として開催する集いの場。



相談する

matching

再就労を考える方やビジネスチャンスを探している起業・フリーランスの方向けのマッチングイベント。



交流する

meeting

芦屋市の女性活躍を推進していくための、市内の事業者・団体向けの交流会。



働く場所

workers spot

新しい働き方や暮らし方を模索する女性の方たちのためのワークスペースの在り方を考え、見つけていく。



働き方を学ぶ

school

新しいチャレンジに向けた学びを得るための、女性のための基礎力アップ講座シリーズ。



起業する

seminar

ハンドクラフトやサロン体験などのスキルをいかした起業を考える方向けのゼミ形式の連続プログラム。



出店する

market

「seminar」のゴール地点として、マルシェを開催。ゼミの成果を発表し、次の一歩目を踏み出す場に。

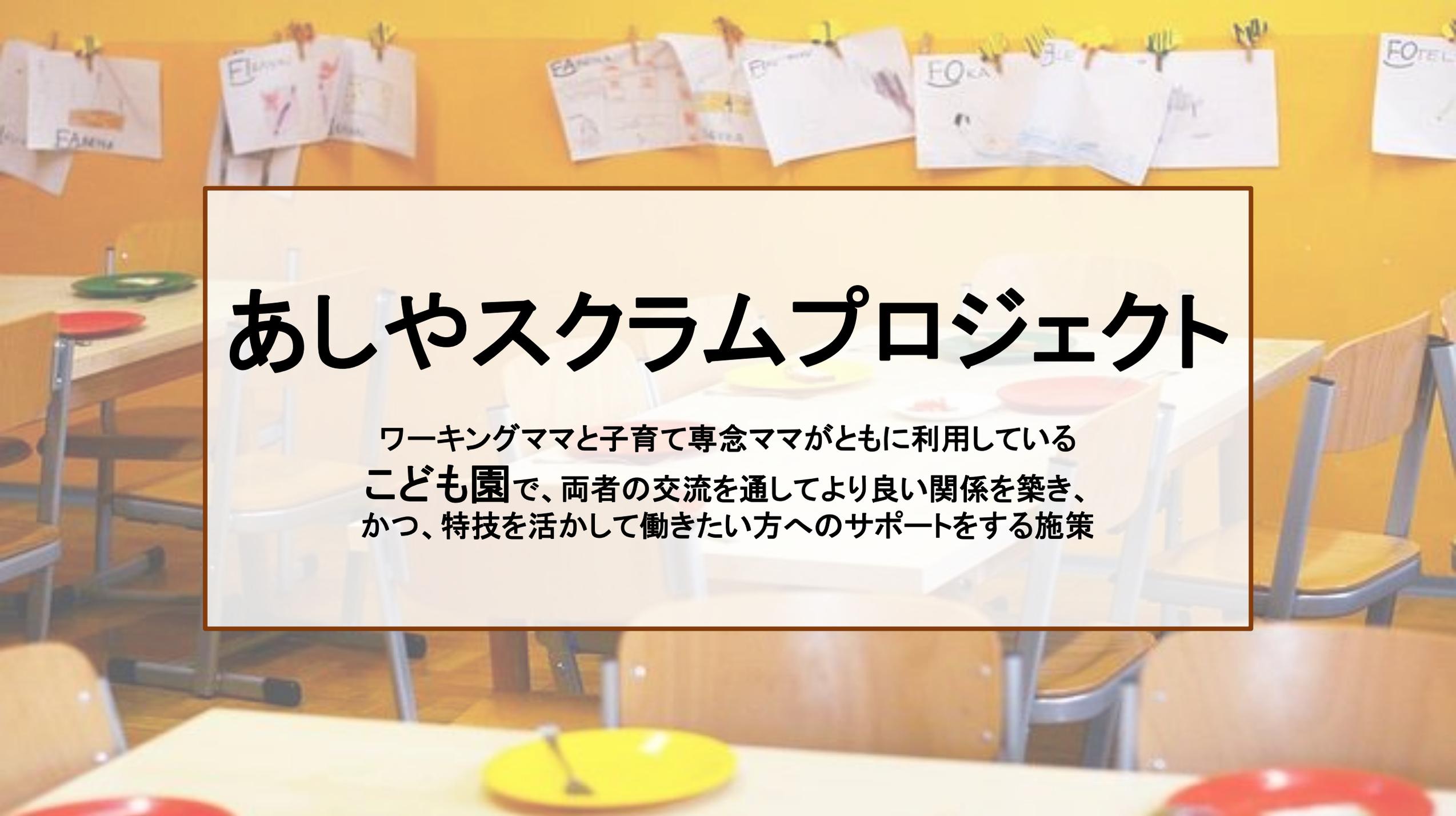
ASHIYA RESUME HPより転載

調査からみえた芦屋市の母親支援の課題

- 芦屋市内で働く場所（事業所）が少ない
 - 出産を機にキャリアを中断した母親にとって、仕事復帰のハードルが高い
 - 起業が仕事復帰の重要な選択肢となっている
- キャリアを継続する母親と子育てに専念する母親との交流の機会が少ない
 - 子供が小学生になった時点では、互いに距離感ができていてPTA活動などがスムーズにいかないと感じている母親も多い。
- 芦屋市は女性のための起業支援プロジェクトを実施しているが、すでに実績を持つハイキャリア女性の活用が中心であり、「これから趣味や特技を生かして…」と考える母親たちにはハードルが高い
 - より多くの女性（母親）たちをターゲットにした導入プログラムが不足



就業している母親としていない母親の交流の場を！
特技をいかして働きたい母親の社会復帰の第一歩を応援！



あしやスクラムプロジェクト

ワーキングママと子育て専念ママがともに利用している
こども園で、両者の交流を通してより良い関係を築き、
かつ、特技を活かして働きたい方へのサポートをする施策

コミュニティハブとして認定こども園の可能性

芦屋市の認定こども園：

幼保連携型の市立精道こども園、私立愛光幼稚園、私立浜風あすのこども園、私立しおさいこども園の4つのこども園が存在する。新設されて**3年未満**の認定こども園が多い。

芦屋市の子育て支援の方針：

- ①幼稚園と保育所のいいところをひとつにした認定こども園を普及していきます。
- ②保育の場を増やし、待機児童を減らして、子育てしやすく働きやすい社会にします。
- ③幼児期の教育や保育、地域の様々な子育て支援の拡充や質の向上を進めます。

2015年4月から
「子ども・子育て支援新制度」を導入

☑2018年から新しく4つのこども園が芦屋市で開園（予定）

→幼稚園や保育所から保護者の就労の有無を問わない認定こども園での教育への移行が進む

☑就業している母親の子供が利用する保育園部と就業していない母親の子供が利用する幼稚園部が共存するため、従来は子供の小学校入学時まで交流がなかった、両者の交流の場としての可能性がある

□ こども園への移行という新しい政策に合わせ、あしやスクラムプロジェクトをアプローチ
⇒さらに快適で新しいコンテンツとしての発展と繁栄につながる

実際に外部の方を呼んだ経験がある

幼稚園部と保育園部のそれぞれの親に対して先入観を持っている

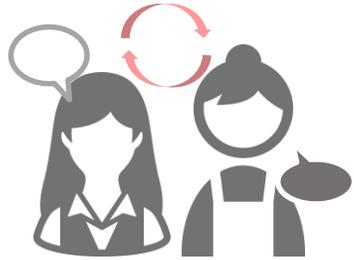


芦屋市立精道こども園
副園長先生の声

期待される効果

① ワーキングママと子育て専念ママの交流

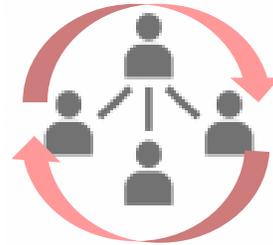
ワーキングママと子育て専念ママの交流



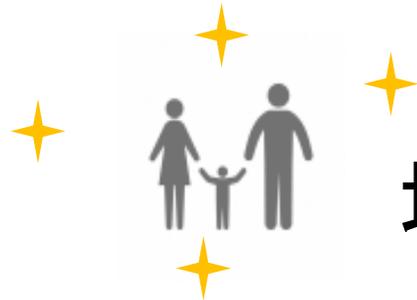
協力志向が生まれ園内の行事が潤滑に



園内に限らず、地域規模で
母親同士の交流の輪が広がる



小学校時のPTAでワーキング
ママと子育て専念ママとの
溝が浅くなる



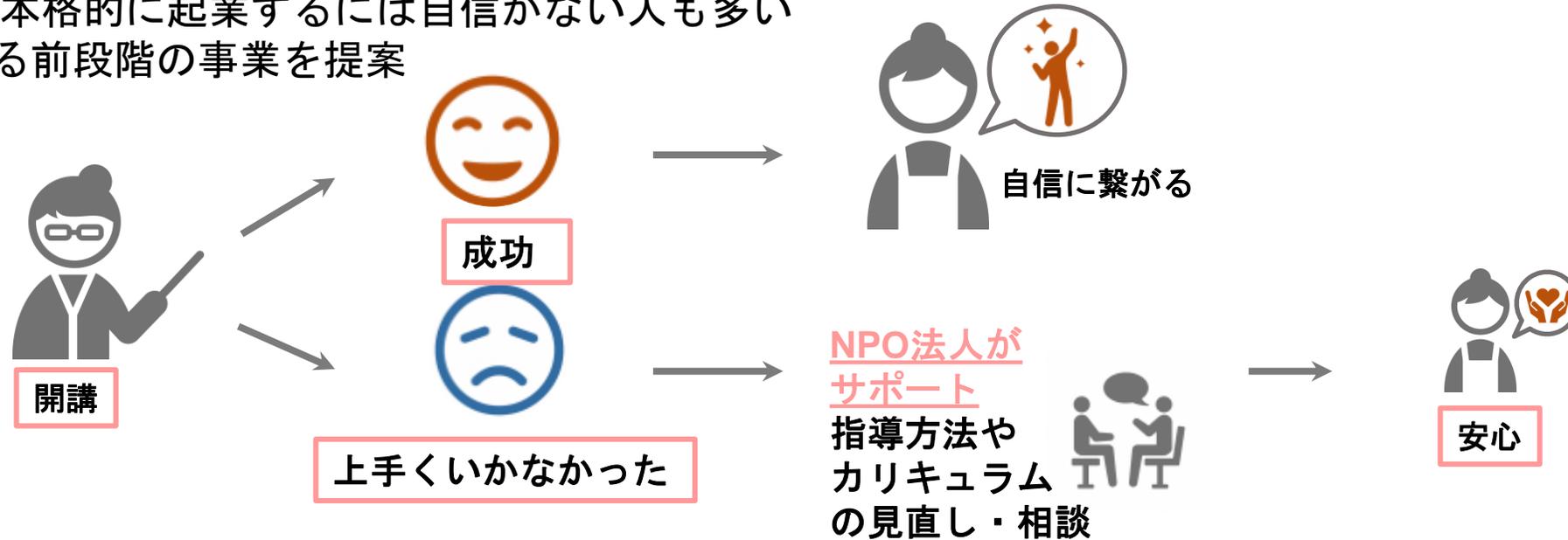
地域の活性化に繋がる



期待される効果

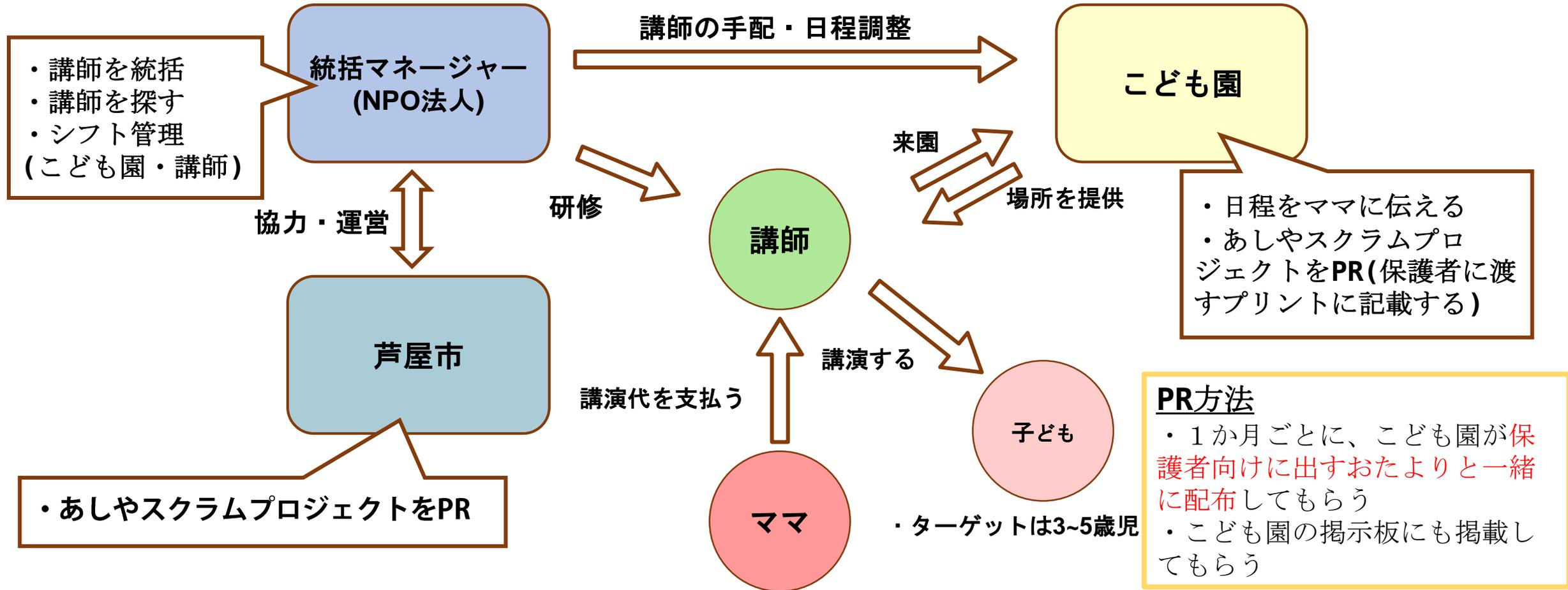
②起業ママの社会復帰に繋がる (起業ママ:起業することに意欲のある母親)

- ◆ いきなり本格的に起業するには自信がない人も多い
→起業する前段階の事業を提案

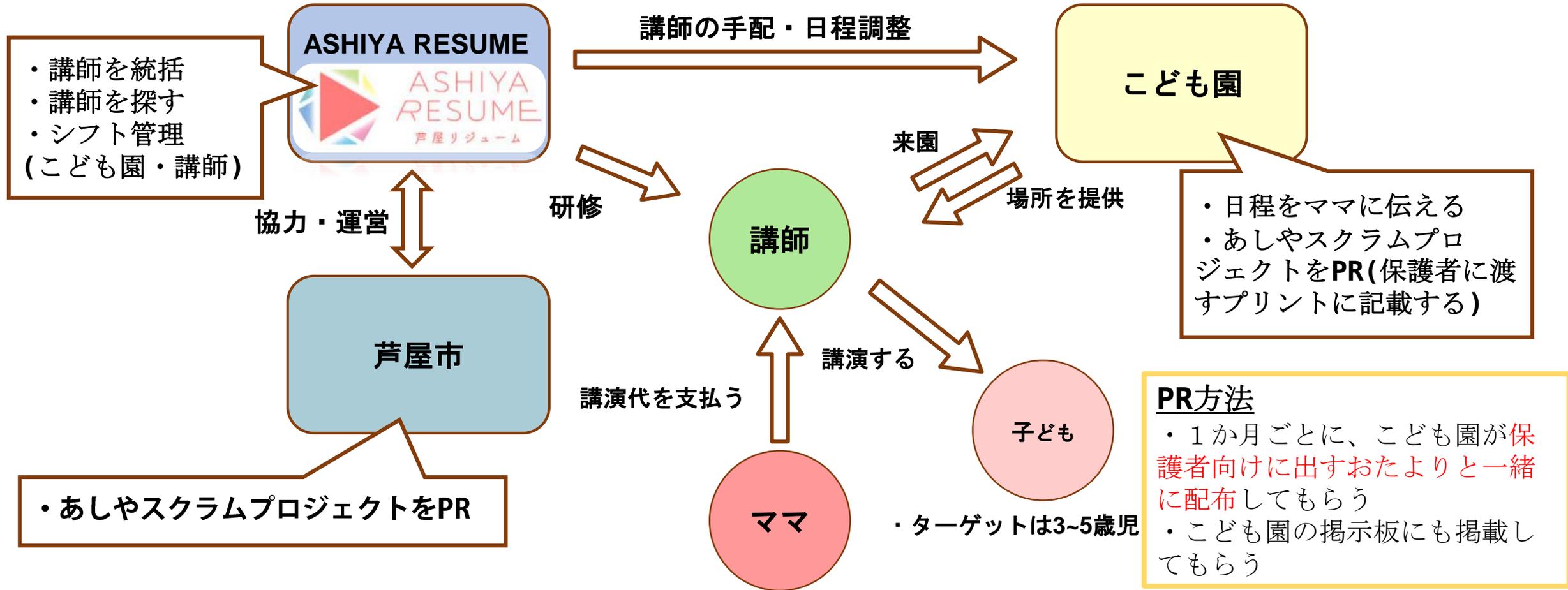


- ◆ 芦屋市の既存の起業支援プロジェクトの前段階として実施
- ◆ 自分では当たり前に行っていることでも、知らない人にとっては“興味深いスキル”
- ◆ より多くの起業ママの卵たちが、本事業を通してセカンドキャリアを考え、起業ママとしての社会復帰を促進
- ◆ 既存プログラムのさらなる活性化にも貢献

事業運営プラン～あしやスクラムプロジェクト～



事業運営プラン～あしやスクラムプロジェクト～



実施スケジュール

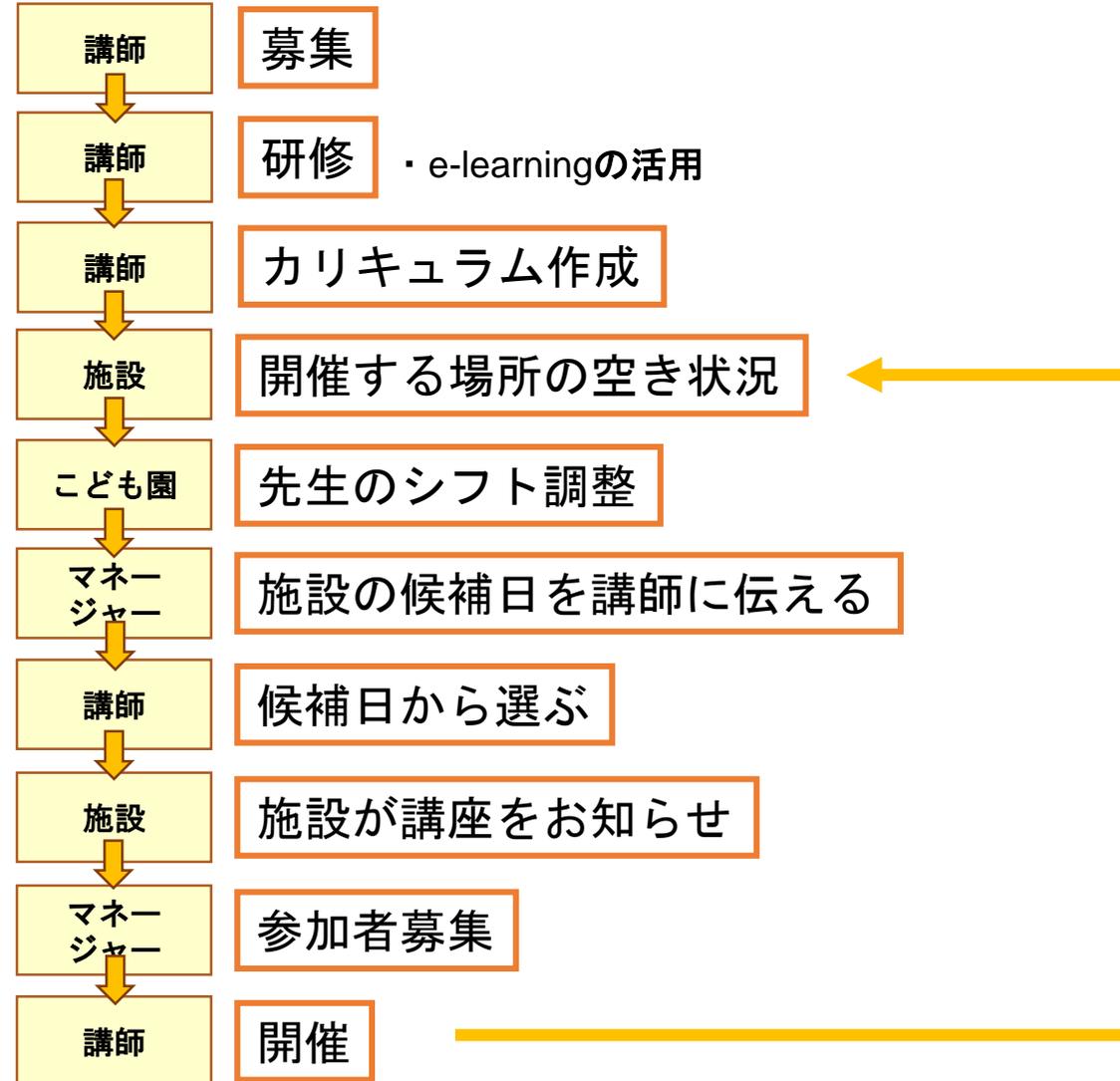
1日のスケジュールと開催時間

時間	0~2歳児		3~5歳児	
	長時部利用児：3号 (保育園担当)	長時部利用児：2号 (保育園担当)	短時部利用児：1号 (幼稚園担当)	
7:00	開園			
8:00	保育		預かり保育 (登園)	
9:00	学級編成による学び・遊び			
12:00	昼食			
13:00	学級編成による学び・遊び			
14:00	保育		(降園)	
15:00	おやつ (短時間保育 降園)		預かり保育	
16:00	標準時間保育 順次降園			
17:00				
18:00	閉園			
18:30				

(参考) しおさいこども園 スケジュールより

◆ 15:00~17:00の間で講座を開講する

講座の開催までの流れ



想定される課題

- 運営の中核となるNPO法人の立ち上げ
→ASHIYA RESUMEプロジェクトと協力しつつ、芦屋ママ（とパパ）による組織を立ち上げる。芦屋の母親へのヒアリング調査では、経済的理由ではなく社会との交流を働く理由としてあげている人も多く、ASHIYA RESUMEと協力関係をつくることで、人材育成や安定的な運営が可能になると考える。
- 保護者への広報
→2つのこども園へのヒアリング調査で、すでに英語講座などで先例があり、保護者に高評価を得ていることがわかった。こども園が保護者に配布しているお便りと一緒に講座告知を配布することが可能であるということであり、保護者への認知は十分に確保できると考える。
- 認定こども園の教職員の負担
→場所や人繰り調整のための管理アプリを開発し、場所や人繰りの状況を可視化して共有することで、NPOの統括マネージャーとのやりとりの負担を軽減する。NPO側にとっても負担軽減となる。
- 受講希望者数の増加
→こども園に預けている間にこのような講座を開催すると、子どもに様々な経験を積ませたい母親の多くが参加させたいと思うが、人数が多すぎると講師不足になってしまう。そのため、講座ごとに対象の学年を絞りなるべく多くの方に平等に参加できるようにする。

芦屋市の2つの認定こども園に本プランを提案したところ
実現に向けて「協力したい！」との前向きなコメントを得た

ご協力いただきありがとうございました！

- 芦屋市役所 こども健康部 子育て推進課 様
- 芦屋市 男女共同参画センター ウィザスあしや 様
- 芦屋市 体育館・青少年センター 様
- 芦屋市 保健福祉センター 様
- 上宮川文化センター 児童センター 様
- 西宮市職業安定所 様
- 芦屋市立 精道こども園 様
- 社会福祉法人 山善福祉会 しおさいこども園 様
- 株式会社ベネッセiキャリア
- NPO法人学童保育むぎっ子
- ちがさき学童保育の会

